

# 【家庭教育支援チーム】

## (1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	春日井市家庭教育支援チーム (呼称:就労相談支援センター 紙ひこうき) URL: <a href="https://www.rebo-flap.jp">https://www.rebo-flap.jp</a>
②活動拠点	愛知県春日井市中央通 1-52 セントラルビル 2 階
③活動範囲	愛知県春日井市全域、他周辺地域
④組織体制	<p>__ 16 人</p> <p>代表 1 人(ジョブコーチ資格所有、介護福祉士)</p> <p>福祉施設職業指導員 2 人(ジョブコーチ資格所有(1))</p> <p>相談員 3 人(資格:介護福祉士(2)、社会福祉士(1))</p> <p>社労士 1 人</p> <p>元不登校ひきこもり当事者家族 1 人</p> <p>通信制教諭 2 人</p> <p>活動スタッフ 4 人</p> <p>傾聴員 2 人</p>
⑤活動開始年度	平成 30 年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 藤井 貴之 (TEL)0568-83-1181 (E-mail)t_fujii@rebo-flap.jp

## (2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他( )
---------------------	--

<p><b>②活動対象</b> (複数チェック可能)</p>	<p> <input type="checkbox"/>乳幼児 <input type="checkbox"/>小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/>小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/>小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/>中学生 <input checked="" type="checkbox"/>高校生以上 </p> <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>
<p><b>③活動内容</b></p>	<p><b>【具体的な活動内容】</b></p> <p><b>①不登校・ひきこもりの相談会の開催</b></p> <p>月に一度、子どもの不登校や学校生活に悩む保護者(とその方の子ども)のための相談会を開催している(参加費無料)。元不登校・ひきこもりの当事者家族である構成員を中心に、通信教育の教諭、社会福祉士やジョブコーチなどの各種資格をもつ専門員や相談員、および当団体代表を交えた相談会は、単なる話を聞くだけにとどまらず、使える制度や連携する機関の紹介、子どもたちの今後のプランの計画などを提案する場になっている。</p> <p>例えば学校に行けず勉強が進まない子どもたちのために、通信制の学校や無料塾を提案したり、当団体構成員が運営するカフェに勤務する機会を与えることをとおして、子どもたちの社会参加の機会を提供したりしている。このような相談を月に一度行っている。</p>  <p style="text-align: right;">【カフェで相談をしている様子】</p> <p><b>②不登校・ひきこもりに関するイベントを開催</b></p> <p>令和5年度に二回、春日井市内で不登校・ひきこもりに関するイベントを開催している。どちらも100名弱の参加者がいた。</p> <p>一回目は不登校・ひきこもりのシンポジウムとして、愛知教育大学の准教授や厚生労働省の職員などを招き、講演会やパネルディスカッションを行った。また、不登校・ひきこもりの現状や、それに向けた国の動き、地域でできることなどの情報交換を行った。</p> <p>二回目は日本エンターテインメント連盟の代表理事の方を招き、講演会とクラウンパフォーマンスを行った。子どもたちに「自分らしい魅力的な生き方」を伝え、子どもたちの居場所づくり(自分の居場所はどこか)を考えてもらう会になった。クラウンパフォーマンスでは、子どもたちを励まし、前向きにするだけでなく、子どもたちが笑い、体を動かす機会を提供した。</p> <p>今後もこのようなイベントを開催し、不登校ひきこもりの情報交換だけでなく、子どもたちの居場所づくり、啓発活動等につなげていく。</p>  <p style="text-align: right;">【講演会の様子】</p>  <p style="text-align: right;">【講演会の様子】</p>

### ③フードパントリーの開催

生活困窮者の親子を中心に食料支援を実施している。個別の対応として渡す場合もあれば、定期的なフードパントリーとして地域の親子に食料を提供することもある。食料は就労移行支援事業所ふらっぷのフードバンク活動でいただいたものを主に使用し、無料で提供をしている。子どもたち向けのいわゆる子ども食堂に食料を提供することもあり、そこでも食を通じて、子どもたちを支援している。①の不登校・ひきこもりの相談会にフードパントリーを同時開催することもあり、不登校・ひきこもりの相談をしたついでに食料支援を行うこともあれば、食料支援を目的に来た方が不登校・ひきこもりの相談をするというケースもある。



【フードパントリーのイベントの様子】

### ④個別相談

①の相談会とは別に、個別に相談を受けることもある。相談会に足を運ぶのが難しい方でも、不登校ひきこもりに関するどのような悩みに対しても耳を傾け、親子の現状を把握し、適切なサービスや制度の紹介、居場所づくりの提案などを行う。個別に相談をしに来た方においても、相談以外の支援(例えば食糧支援)も必要であれば行う。また、個別の相談は、ラインや Zoom といったICTを活用して、チャットや面談の形で行うこともある。



【当団体への相談を通じて、通信制高校を紹介し通信制高校を卒業した方の卒業式の写真】

### ④活動の成果

(活動実績がある場合)

・ ひきこもりの子どもとその保護者の方からの相談を受け、個別面談を実施した。現状の把握から始め、将来の生活までのライフプランと一緒に計画するなどした。また、その親子に通信制高校を紹介し、その方が無事高校卒業し、就職することができた。相談者の居場所づくりや就職まで、切れ目のないサポート体制によって、現在も働き続けることができています。

・ 地域で大規模なイベントを行い、その活動がケーブルテレビや新聞に載ることになった。そのおかげで当団体の活動の認知度を上げることができ、問合せも多くいただくようになり、より多くの方の相談・支援を行うことができた。またイベントを通じて、地域の皆様に当団体の活動を PR することで、不登校・ひきこもりといった家庭が抱える問題について考えるきっかけづくりに貢献することができた。

・ フードパントリーもしくは個別の対応により渡す形で食料を提供し、生活に困窮している家庭に支援を行うことができた。イベントでの配布を含めると

	<p>今年度で 100 世帯以上の家庭に食料支援を行った(活動内容②のイベントだけで約 100 世帯に食料提供をした。)。また食料支援をきっかけに、不登校・ひきこもり、就職、又は生活全般の悩みを打ち明けられたケースも多くあり、それが支援につながった。</p> <p>・ 個別相談に来た方で、就職意欲が高い人に、生活困窮者就労訓練事業の認定事業所である「ふらっふ」を紹介し、そこでの訓練等を経て、令和 6 年の春に就職が決まった相談者がいる。本人は体調面に不安を抱えており、本人及びその保護者の方と何度も面談を重ね、本人のペースに合わせて就活を支援した。</p>
<p><b>⑤活動財源</b> (複数チェック可能)</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名: )</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 (イオン幸せの黄色いシートキャンペーン、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議市民団体活動支援金、春日井子ども・子育て支援団体補助金)</p>